

利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議
道路空間活用ワーキンググループ(第2回)
議事要旨

1. 日時・場所

平成 27 年 11 月 20 日（金）15 時～17 時，都庁第二本庁舎 31 階 特別会議室 27

2. 出席者

別紙 参加者名簿のとおり

3. 議題

- (1) 道路空間活用ワーキングスケジュール
- (2) 歩行者空間の創出
- (3) 地域公共交通の改善
- (4) その他

4. 配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 道路空間活用ワーキンググループ委員名簿
- ・ 資料 1 論点 1 歩行者空間の創出
- ・ 資料 2 論点 2 地域公共交通の改善
- ・ 別紙 自転車・歩行者の利用実態 Web アンケート調査 結果速報

5. 意見交換要旨

1) 論点1 歩行者空間の創出（資料1）

①歩行者空間の創出の手引・デザインガイド

【共同社会実験について】

村木主査：

- ・ 共同社会実験は手を挙げた自治体で実施するのか。
- ・ 社会実験をすることで思いもよらなかった効果が出てくることも考えられる。

←(事務局)：

基本的には、歩行者空間創出をやりたいと手を挙げてくれた区市等と共同して実施したい。

警視庁交通部交通規制課都市交通管理室長：

- ・ 共同社会実験は、新たに規制をかけて歩行者空間をつくる実験まで入っているのか。

←(事務局)：

実験では、地元が検討している地区を基本として①その空間での歩行者空間創出が適切かの検証、②サインの模型において、そのデザイン評価、誘導効果についても検証予定。

豊島区都市整備部拠点まちづくり担当課長：

- ・ 実験内容ややり方がより具体的にわかるのはいつ頃か。区の負担分について予算確保が必要

なので早く知りたい。

新宿区都市計画部副参事：

- ・サイン以外の歩行者空間創出に必要な色々な取り組みについての支援はあるか。財政的支援や都庁内の関係者との調整の支援などはあるか。

←(事務局)：

- ・サイン設置が目的ではなく、歩行者空間を創出し、周辺も含めた回遊性を高めるためにサインの活用を考えている。
- ・共同実験について、現時点では詳細については決まっていないため回答できない。
- ・財政支援まで広げる検討をしてはいるが、現時点ではない。

【手引・デザインガイドについて】

千代田区環境まちづくり部麹町地域まちづくり課長：

- ・大丸有を中心に公的空間の活用を、地元の組織がエリマネとして担っている。「各種イベントの実施等」について、公的空間においての適切なイベントはどのようなものかという点を悩んでいる。イベント収益でエリマネの活動費を賄いたい、一方で収益に対して課税され、エリマネの活動費が減ってしまう。こうした課題についても手引・デザインガイドに案がしめされるのか。
- ・短期の場合は警備も対応しやすいが、継続実施では安全面で新たな問題が出てくることもあるので、そういったことも検討にいられて頂きたい。

東京都都市整備局都市づくり政策部開発企画課長：

- ・大丸有地区を担当。オープンカフェやイベント実施について、短期だけではなく継続実施の場合の課題・対応策等も検討して欲しい。

村木主査：

- ・使う側の視点で考えると、悩み事に対する解決のためのガイドならばこれを見れば全てわかるというものを使いやすい。
- ・空間活用、マネジメントの部分については、空間の使い方だけではなく、それをしようとするとき、誰と協議すべきという点も書かれていると現場では使いやすい。

←(事務局)：

- ・頂いた内容についても検討し、取りまとめたい。

【歩行者空間の創出の進め方について】

新宿区都市計画部参事：

- ・歩行者空間創出の取組みでは、道路管理者や交通管理者等の様々なセクションとの協議が必要となり、課題も多岐に渡る。手引では、各協議先での対応策が解説されるとよいと思われるが、筋書、手続きについてどのように書くイメージか。

八王子市拠点整備部中心市街地整備推進課長：

- ・歩いて楽しいまちづくりを実践しているが、道路管理者、交通管理者、各関係者間の調整が非常に大変。
- ・都からこうした取組を進めていくのだという気概を、ポータルサイトなどを通じてでも示し

てもらえると、各管理者等をふくめ、全体が同じ方向に進みやすくなると期待。

村木主査：

- ・調整は同じ行政間でも大変で、また各地区がそれぞれで調整を進めていては時間がかかりすぎる。2020年大会を見せると、様々なことを短期間で行う必要がある。ロンドン大会では全てを一括して進めることで時間短縮をはかった。これまでの事例からみられる課題解決を考えるだけでなく、2020年大会にむけて短期間で進められる新しいやり方を考える必要がある。また、これについて新しい実験を進めることも有用。

←(事務局)

- ・手引は、共通課題の解決策と先行事例からの課題別対処策を、事例紹介を挟みながら解説するイメージ。
- ・個別ばらばらではなく、一括して進めることで時間短縮等、効率化を図る方法についてロンドンの取組も参考として検討したい。

②歩行者空間の創出の取組促進・支援ポータルサイトの設置

村木主査：

- ・都市整備局のサイトへの掲載で一般の人が閲覧してくれるのか疑問。
- ・一般都民等から意見を投稿できる仕組みはあるのか。

千代田区環境まちづくり部麴町地域まちづくり課長：

- ・東京都 hp の中でも、観光や賑わいのサイトなど観光客が一番関心を持つ部局のサイトに掲載されているほうがアクセスされるのでは。

豊島区都市整備部拠点まちづくり担当課長：

- ・都市整備局のサイトにあっても誰も閲覧しない。専用サイトを作成し、そこから各局や各施策へアクセスできる方がよい。
- ・再検討の必要があるのでは。

←(事務局)

- ・一般市民からの意見投稿や、専用サイトとしての設置は内部的にハードルが高く難しい。まずはできることから始め、少しずつ広げていきたい。
- ・現時点でできる最善の努力をする。

2) 論点2 地域公共交通の改善 (資料2、別紙)

①(仮) 東京交通政策担当者ネットワークの立ち上げ

新宿区都市計画部参事：

- ・担当者は組織、担当者個人のどちらをイメージしているのか。複数課が関わってくることが想定されるが、区の方で代表者を一人決めるということでよいか。

←(事務局)：そのようにお願いしたい。

②地域交通の課題把握

村木主査：

- ・利便性の観点からは、運行頻度もみるべき。コンパクトシティの視点もあわせて考えること

が必要。

新宿区都市計画部参事：

- ・地域交通については、移動だけでなく土地利用を含む地域の課題である駐車場や駐輪場についても一緒に整理してもらいたい。また、人の移動だけでなく物の移動（物流）も課題となるため、検討して欲しい。

←(事務局)：

- ・国が出しているアクセシビリティ指標等も用いて補足する。頻度別情報についても検討する。コンパクトシティについては、交通セクションとして、この視点で見たときに何をすべきで、課題は何かを考え手立てを検討していくことになると考えている。

③自転車の交通体系への位置づけ

村木主査：

- ・短距離交通に自転車を位置づけると、土日に新宿や渋谷等のターミナル駅から5km圏内に自転車があふれて大変なことにならないか。
- ・自転車は年齢に関係なく一定の割合で利用されている一方、高齢者は鉄道やバスの分担率が低い。今後都内の高齢化が進むにつれて公共交通の利用率が下がることが想定されてくるとも重要な問題。
- ・走行空間が十分ではない、ルールを知っていても守らない、という現状のなかで自転車政策を進めていくと問題がでてくるのではないか。自転車利用の多い海外の都市とは異なる点であり、同じような政策をとっても、出てくる課題が異なる。東京ならではの位置づけが必要。それがシェアサイクルである可能性もある。
- ・交通体系に位置づけることで弊害が起きないように今後慎重な検討が必要。
- ・本WGは道路空間活用に関わる全てが含まれていることを踏まえ、自転車と車、歩行者の関係、空間の利活用等の再検討が必要。

新宿区都市計画部副参事：

- ・自転車を交通体系に位置づけることによるメリットとデメリットは何か。
- ・東京都が位置づけをすることで、各自治体が取り組むべきことはあるか。
- ・駐輪場や自転車レーンは都道のような広幅員道路でないと対応できない。調整も含め横連携を都が主導することも検討してもらいたい。

江東区土木部交通対策課長：

- ・交通モードとして自転車を位置づけた場合、バス等ではなく自転車で補完しようとするなど、公共交通拡充にマイナスに働く恐れはないか。
- ・検討の背景に、自転車活用のプラス面ばかり強調されているが、マイナス面（課題）も記載すべき。特にルールが守られておらず怖い、という歩行者からの苦情は非常に多い。自転車の事故関与率も全国平均は2割位だが東京都は3割と多い。走行空間整備の要望は自転車利用者だけでなく歩行者からも多い。安全対策をセットにしないと自転車政策としては成り立たない。

警視庁交通部交通規制課都市交通管理室長：

- ・交通体系への位置付けから安全性、利便性の向上までつなげる議論をどうまとめて進めてい

くのが難しい。公共交通へのアクセス、イグレスであれば行動把握できるが、買い物等の日常利用の行動実態をどのように捉え、安全性、利便性向上のために何をしていくのか。走行空間創出、安全性向上について担当課と一緒に検討している。今回も重点的な対策の方向性等がわかれば協力できる。

- ・道路空間活用の視点で、自転車の位置付けを整理すると駐輪や通行環境も考えやすくなるのではないかと。
- ・なぜ今この時点で地域公共交通の改善や自転車について議論する必要があるのかという点についても整理して頂きたい。

東京地下鉄株式会社鉄道本部改良建設部垂直移動設備整備協議担当課長：

- ・これから政策展開していくためにも交通モードに位置づけるという方針には賛成。
- ・シェアサイクルのように台数や距離をコントロールできるものは交通モードに位置づけ、展開する施策もわかりやすい。日常利用という点もポートの設置箇所とリンクさせれば可能。
- ・アンケートについては、5km圏内の交通選択（徒歩か自転車かシェアサイクルかバスか）について尋ねたい。結果にばらつきがあるならば、選択肢を増やすことが利便性向上と言える。

東京都建設局道路管理部安全施設課長：

- ・走行空間については、2020年大会までに推奨ルートを約200km整備予定。対象は幹線道路だけではなく、規制速度が低く車の交通量が少ない区道や市道もルートに入れている。2020年大会の後にも都内全域に展開していくことを検討しているため各自治体の方々とも連携して進めていきたい。
- ・自転車を交通体系に位置づけるということは、走行空間等の整備をしっかりと進める必要があると考える。

東京都青少年・治安対策本部総合対策部交通安全課長：

- ・ルール・マナーの普及啓発については、警視庁との連携で進めている。ルールを知っていても守らない人も多く、当面は現行の取組を進めることが重要と考えている。

←(事務局)

- ・自転車を交通体系に位置づけ交通政策の対象とすることにより、都庁内各部局が取り組んでいる施策などについての後押しをすることを想定。
- ・各自治体がこれによって俄かに何かに取り組まなくてはいけないことが出てくるとは考えていない。
- ・交通戦略で自転車を交通体系に位置づけた、と記載すれば安全性や利便性が向上するとは考えていない。位置づけたうえで、具体的な施策展開をWGでも相談させて頂きながら検討を進めたい。
- ・色々と頂いたご意見を重要な視点として、原点に立ち返り検討をしていきたい。

3) その他

(事務局)： 次回WGは2月上旬に開催予定。

以上

利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議
道路空間活用ワーキンググループ(第2回) 出席者名簿

	役職名	出欠
主査	千葉大学大学院工学研究科 村木美貴教授	出席
委員	東京都政策企画局調整部技術政策担当課長	出席
委員	東京都青少年・治安対策本部総合対策部交通安全課長	出席
委員	東京都都市整備局都市づくり政策部開発企画課長	出席
委員	東京都都市整備局都市基盤部交通政策担当課長	出席
委員	東京都都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長	(欠席)
委員	東京都環境局地球環境エネルギー部環境都市づくり課長	出席
委員	東京都産業労働局観光部事業調整担当課長	出席
委員	東京都建設局道路管理部安全施設課長	出席
委員	東京都港湾局港湾経営部経営課長	出席
委員	東京都港湾局臨海開発部開発整備課長	出席
委員	東京都港湾局臨海開発部開発調整担当課長	出席
委員	東京都交通局総務部企画調整課長	出席
委員	警視庁交通部交通規制課都市交通管理室長	出席
委員	警視庁交通部交通規制課信号機施設管理担当管理官	(欠席)
委員	千代田区環境まちづくり部麹町地域まちづくり課長	出席
委員	中央区環境土木部環境政策課長	出席
委員	港区街づくり支援部土木計画担当課長	出席
委員	港区街づくり支援部交通対策担当課長	(欠席)
委員	新宿区都市計画部参事(都市計画課長事務取扱)	出席
委員	新宿区都市計画部副参事(新宿駅周辺整備担当)	出席
委員	新宿区みどり土木部道路課長	(欠席)
委員	江東区都市整備部まちづくり推進課長	出席
委員	渋谷区土木清掃部管理課長	出席
委員	豊島区都市整備部拠点まちづくり担当課長	出席
委員	八王子市拠点整備部中心市街地政策課長	(欠席)
委員	八王子市拠点整備部中心市街地整備推進課長	出席
委員	立川市まちづくり部交通対策課長	出席
委員	奥多摩街企画財政課長	(欠席)
委員	東京地下鉄株式会社鉄道本部改良建設部 垂直移動設備整備協議担当課長	出席
オブザーバー	国土交通省都市局街路交通施設課街路事業調整官	(欠席)